

## <岐阜県可児郡御嵩町>

### 【統合困難な地域における教育環境の充実の取組モデル】

#### ○小中連携や、学校と地域の連携を充実させて教育の高度化を図った例

## 1. 市町村の概要

◆人口：18,411人（平成30年5月現在）

◆小学校：3校，児童数889人 ◆中学校：3校，生徒数487人

※学校数，児童生徒数は平成30年5月1日現在

### ◆市町村全体の学校の統合・存続の状況

昭和47年，学校統合により上之郷小学校が誕生して以来，今日まで町内小学校3校，中学校3校の存続を維持している。平成26年11月「御嵩町小・中学校における学校運営協議会の設置及び運営に関わる規則」を制定し，平成27年4月に上之郷小学校において学校運営協議会を設置し，コミュニティ・スクールとしてスタートした。平成30年度には2校が設置，残る学校についても設置に向けて準備を進めている。学校運営協議会では学校の在り方についても協議されている。

## 2. 研究タイトルと研究課題

### ◆研究タイトル

小規模校を存続させる場合の教育活動の高度化

### ◆研究課題

「少人数のメリットを最大化させる方策」にかかわる5つの研究課題

①学力向上 ②体力向上 ③歯科保健活動 ④防災教育 ⑤保・小・中の連携

「少人数のデメリットを最小化させる方策」にかかわる3つの研究課題

①小規模特認校の推進 ②放課後子ども教室の設置・運営

③スポーツ少年団の参加率向上（運動好きな子の育成と社会性の涵養）

## 3. 調査研究対象校の状況

### ◆調査研究対象校

御嵩町立上之郷小学校（6学級，72人）

### ◆調査研究対象校を存続することとした背景・理由

上之郷地区は御嵩町の中でも山間部に位置し，田畑も多いため，新しい住宅が建つことも少ない。ここ近年は人口減少が著しいが，地域の住民は，学校の教育活動に協力的であり，「地域の学校」としての意識が強い。

### ◆調査研究対象校における地域との連携の状況

学校運営協議会を立ち上げ，学校運営に地域の意見を取り入れている。また，地域の農事組合法人と連携し，米作りや大豆作りを教えていただいている。

### ◆児童生徒数を確保するための工夫

小規模特認校制度を採用し，小規模な学校で学びたい，学ばせたいと願う希望者が町内全域から転入学できるようにした。

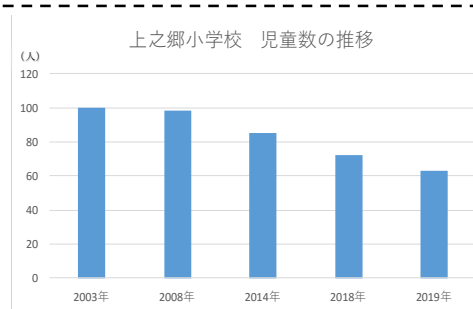
また，今回の研究課題にあることについて，成果を上げ，「行きたい学校」になるための努力を継続している。

### ◆調査研究対象校の位置



西は可児市，南は土岐市，東は瑞浪市に接した町である。校区が広くかつ山間部であり，児童の3割がスクールバスでの通学である。

### ◆対象校の児童生徒数の推移



## 4. 本調査研究において取り組んだ内容

### 【小規模校のメリットの最大化】

#### ◆保・小・中の連携

##### （保・小の連携）

アプローチカリキュラムを幼児期までに育ってほしい「10の姿」に基づいて見直すとともに、共通課題に基づく実践交流の積み上げと園児を巻き込んだ意図的・系統的な生活単元を実践し小1プロブレムを解消する取組。

##### （小・中の連携）

学力（国語・算数）と体力について、小中9か年を見据えた系統的な指導と検証を行う。兼務として、6年生の音楽と英語の授業に中学校の教員、また、中1の技術に小学校の技術専科の教員が入り、専門性を生かした指導。

### 【小規模校のデメリットの最小化】

#### ◆放課後子ども教室の設置・運営

平成28年度から1～3年生の希望者を対象に、年間15回放課後子ども教室を開催している。活動内容は、「スポーツ」「詩吟」「英語」「盆踊り」「ハンドベル」「太鼓」「三味線」と様々である。講師は、英語はALT（外国語指導助手）、その他の活動は地域の方々をお願いしている。その活動を通して、「詩吟」や「盆踊り」等の学びを地域で披露することで、「地域に学ぶ学校・地域を愛する学校・地域に働きかける学校」を推進する。

#### ◆スポーツ少年団の参加率向上

校区には、山間部が多いため、児童だけで移動することが難しい地域が多くあり、土日にスポーツに親しむことができない児童も多い。そのため、スポーツ少年団の練習を本校で行い、その練習を体験する機会を作る。

行った体験は、野球、サッカー、バレー、テニス、少林寺拳法とフェンシング体験（県内の大学のフェンシング部の学生及び指導者による）の6種目である。



保育園児と1年生の交流



中学校教員による音楽の授業



地域のまつりで「詩吟」の披露



フェンシングの体験

## 5. 研究の成果と今後の取組

#### ◆研究の成果

##### 【保・小・中の連携】

保・小・中が連携することで互いの取組を理解でき、良さを吸収し合って指導に生かすことができた。

##### 【放課後子ども教室の設置・運営】

地域の方が講師となり、児童は楽しく学んだり活動したりすることができた。これを機会に様々な行事に児童自らが主体的に参加し、盆踊りや詩吟など、教室で教えていただいたことに自信をもって披露することができた。地域からの反応も大変良く、今後も継続していきたい。

##### 【スポーツ少年団の参加率向上】

3年間の取組により、8人がスポーツ少年団へ入団することができた。

#### ◆今後の取組

保・小・中の連携や地域の方々との交流活動をより一層進めながら、保護者の教育に対する要望を探りながら少人数の良さを生かしつつ、一人一人を大切にされた特色ある指導を継続する。

## 6. 学校の存続に課題を抱える自治体へのメッセージ

小規模校だからこそ、個に着目し個に応じたきめ細やかな指導ができる。それにより個の学びを徹底して見届けることができる。また、保護者・地域との対話を生かした教育を進め、特色のある教育活動を進める中で、児童・保護者・地域にとって誇りある学校作りを進めることが、課題解決のカギとなるはずです。